

耐雪タイプの木造県産材住宅の見学会の様子

根曲がりかびどく、生育も遅い。製材した時の歩留りも他地域よりも悪いと思っている。

あまり良いところの見えないスギであるが、最も優れている点は「このスギを生産することに全てをかけている」北信州森林組合・田中氏の存在である。この会の事



NPO法人北信州の森林と家をつなぐ会の主要メンバー(会のキーマン・田中氏は右から3番目)。森林学習の拠点「学森舎」完成時に

WE LOVE forest !

林業研究グループ

NPO法人北信州の森林と家をつなぐ会

長野県中野市・山ノ内町・木島平村等

会員数	17名 (うち女性1名)
設立	平成14年8月

■この会はずい!!

長野県には、森林と住宅を結びつけるグループが20近く存在するが、この会は常にトップランナーのひとつである。そして地域で最も魅力的な人間が集まってきている。その証拠に歴代の担当林業普及指導員(以下、AG)がどこに異動しようとも、離れることができずに、1グループに3人以上のおせっかいAGが張り付くという豪華版である。

会の魅力は、森林組合、製材業、建築士、大工、工務店などの業種が片寄ることなく集まっていること、個性の強い人間がお互い好きなことを言える土壌を作り上げてきたことにある。

しかし、目的はたった一つ「北信州のスギを家にしていきたい」、ただそれだけ。主な活動は地域材住宅の普及をベースに「森林整備体験」「木工体験」「工場見学会」「木育系活動」を継続的に行っている。メンバーが関わる住宅の内容も年々レベルアップしており、見学会での参加者も多く、今後さらに素敵な住宅が地域が増えていくことは必至である。

■人が活かした北信濃杉!

長野県北部の豪雪地帯のスギは、

事務局が変わることなく続けているが、彼がこの会のキーマンであることは疑いようもない。田中氏の行動力が、建築士や製材業者を動かす、会を発展させ、さらには地域林業までも大きく変えた。

この地域のスギは、「人によって活かされた」のである。

■行政は頼るな、利用しろ!

長野県では、こうした団体に色んな支援をしているが、この会は、行政を上手く利用している。私は行政マンであるが、その様子を羨に好ましく思っている。会に役立つ事業は逃さず利用し、かといって行政にこびることなく、対等に付き合っている。また、メンバーの力だけで運営をしている。そうした潔さがたまらないのである。

歴代3人の会担当AGは、住宅

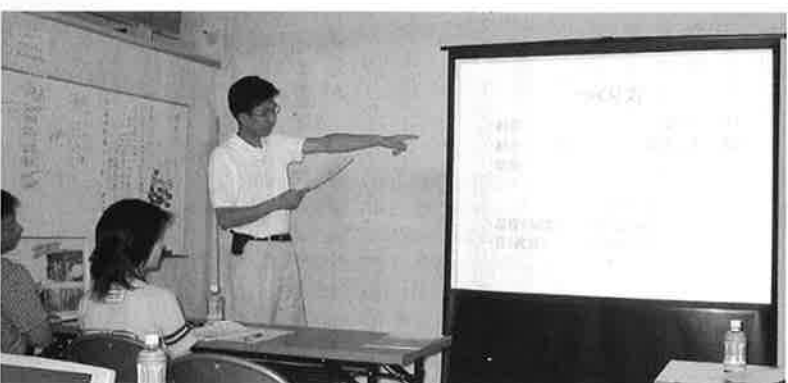
見学会では駐車場係を命ぜられている(恥ずかしい)。なぜなら、AGよりもはるかに説明の上手いメンバーが、見学者の心をがっちりつかんでしまうから。

■もう少しがんばって欲しい

この会には、大きく2つの課題がある。「住宅をもっと増やしてもらいたいこと」「情報発信力アップ」である。

「北信州家づくりネット」という企業団体と連携を取りながら、県産材住宅の普及を行っているが、まだまだ増やせると思っている。家を建てる人が、かならず県産材住宅を選択肢に入れるまで、がんばって欲しい。駐車場係はしっかりやるから。

(まごめ)長野県林務部
信州の木活用課 主査 久保田淳
(元・担当林業普及指導員)



住宅勉強会の様子。講師は製材工場社長で、会の広報担当